



ユーザーの声 Vol.2*

「ピンチをチャンスに」 SCENARIO×八重で伸ばす臨床スキル

カリキュラム改正や新型コロナウイルスの流行を受けて、教育方法を見直されるご施設様が増えていきます。鹿児島県にある鳳凰高等学校もそのうちの一枚。学内演習の充実を目標に年次計画を立て、昨年多職種連携ハイブリッドシミュレータ "SCENARIO" 4体と万能型看護実習モデル "八重" 13 体を導入されました。導入のきっかけから実際の授業の様子までを、「ユーザーの声シリーズ Vol. 2」としてご紹介します。

SCENARIO と八重に出会うまで

ICT 教育の推進を教育具現化目標に掲げ、電子教科書など新たな教育手法を積極的に採用されている鳳凰高校。しかし、これまでシミュレータを用いた演習には難しさを感じることが多かったそうです。「昔のモデルは関節の使い勝手が悪く、可動域が広すぎるうえに簡単に外れてしまいました。皮膚も固く冷たい素材で、人間を想定しづらかったです。」と語るの専門課程主任の井料先生。

20 年近く前に購入されたままになっていた全身シミュレータの破損状況はひどく、また古いモデルゆえの unnatural さや、使いづらさからほとんど授業で使うことができていませんでした。そんな状況の中で、「学内演習を充実させたい」「臨床判断能力を育成させたい」という思いは常に先生方の中にあつたといいます。

TOPICS

新カリキュラム

2022 年度より、厚生労働省が発出する看護専修学校に向けた看護基礎教育のカリキュラムが 14 年ぶりに改定されます。改定では、基礎看護学分野において「臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法などを学ぶ内容とし、シミュレーションなどを活用した演習を強化する内容とする」という文言が新しく追加されました。人口や疾病構造の変化や療養の場の多様化、臨地実習の機会が減少する中で、必要な看護実践能力を学内で工夫して育成することが求められています。



導入の決め手

「初めて八重を見せていただいた時、関節の可動域や丈夫さ、皮膚の質感が人間に近いと感じました。体重も学生に扱わせやすいちょうどいい重さです。」と先生方。また SCENARIO に関しては必要なアセスメント機能がバランスよく入り、数値を自由に設定できるため簡単にシミュレーションを設定できる点を評価していただきました。

「八重と SCENARIO の導入を検討していたのは、新型コロナが流行り始めていた事もあって、今後実習がどうなっていくか分からないという不安な時期でした。予算的な問題はもちろんありましたが、以前から学内演習を充実させていきたいという教員で共有していた目標があったことで、今回の導入に踏み切りました。」とのこと。また、営業担当のサポートも決め手となったそう。「実際に、納品していただいた直後から実習が中止になった2年生のために SCENARIO と八重で代替実習を行いました。基本的な使い方から、授業での活用のアイデアまで、色々アドバイスをいただきました。」

TOPICS

ユーザーの声 Vol.1

"八重"を使って 人を意識した学びを

在宅看護実習室の改装に伴い、実習人形を"八重"に一新された四日市医師会看護専門学校。現場での実践力を養うために実習モデルに求める3つの条件や八重の授業での活用の展望についてお話いただいています。

詳しくは SimSimWEB へ→



導入して変わったこと

Tasks

SCENARIO を使い始めたことで、学生が確実に各アセスメントを行うことができているか確認できるようになったことは大きな進歩だったと基礎看護領域の竹内先生。「今まで血圧測定も学生同士でさせていたため、手順は確認できていても実際に正確に計測できているのかは確認できずにいました。今は、タブレットで減圧の速度も、学生が計測した数値が合っているかも確認することができるので、SCENARIO を導入して良かったと感じています。」



Communication

また、このリアルなシミュレータを導入したことで、学生のパフォーマンスに変化があったといいます。「実習を想定していても、やはり学生同士だとどうしてもロールプレイングの要素が強くなってしまいます。シミュレータを取り入れてしばらく経ったとき、車椅子への移乗の際に学生が八重さんにすごく自然に声掛けをしているのを見て、驚きました。授業後もまるで患者さんに接するかのようにシミュレータを扱っているんです。」



Future

新型コロナのピンチを学内演習の充実のチャンスに。看護学科統括部長の大江先生はこう話します。「今はまだ SCENARIO も八重も導入したばかりでシミュレータを用いたトレーニングは基本的なものが多いですが、今後は搭載されているシナリオも活用しながら応用的なシミュレーションを授業に取り入れて、確かな臨床判断能力につなげていきたいと思えます。」



学校ご紹介

学校法人 希望が丘学園 鳳凰高等学校

鳳凰高等学校は「誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育」を建学の精神とし、医療、福祉分野を中心とした3学科の他に、大学進学や就職を目指した3コースを有する高等学校です。

5年一貫課程である看護学科では、アクティブラーニングの視点から授業の充実を図り、「積極性と主体性を育てる授業づくり」を目指しています。

インタビューご協力

左から井料先生、中村先生、竹内先生、上園先生、安水先生 写真外 大江先生

NEXT 鳳凰高校の授業に潜入



鳳凰高等学校の授業に潜入！

鳳凰高等学校が実際にどのように授業をされているのか、潜入取材をさせていただきました。新型コロナウイルスの影響を受けて、看護基礎教育を取り巻く環境が大きく変わった昨年度。そんな中でもできるだけ実習に近い学内演習を行うために、鳳凰高校さんではどのように授業を作り上げていかれたのでしょうか。今回の取材から見えてきた5つのルールをレポートします。

学内演習を充実させるための5つのルール

1. 患者設定はできるだけリアルに
2. ミスを指摘しない
3. 学校を病院に
4. 再現できないことは、写真でいい
5. 学内演習のメリットを活かす

1 患者設定はできるだけリアルに

今回の授業の事例は心不全。事前に患者の状態や心不全に関する資料を配布し、学生はどういったケアを実施するのか計画を立てます。患者設定では、金太郎さんという架空の患者の人生を追うシナリオを用意。学生は領域を横断して、金太郎さんの入院と合併症の併発、奥さんや兄弟の疾患や、子どもや孫との関わり、金太郎さんの死を1年間をかけて経験します。その場限りでない、リアルで細かい設定を行うことで、学生が看護計画を立てやすくなることはもちろん、より患者に寄り添った看護を引き出すことができるそうです。



2 ミスを指摘しない

看護計画を立て終わると、学生は指導教員に報告を行い、内容の修正を行います。そしてケアの内容が固まると、いよいよ実践に移ります。ここでは学生は自分で立てた看護計画に沿ってケアを実施するため、グループによってその内容は様々で、準備物も学生自身で用意します。先生方は学生がミスをしてでも指導者目線で指摘しないよう心がけているそう。最初はできるだけベッドサイドから患者目線でのヒントを与えるようにしています。失敗してもいいシミュレータを使っているからこそ、できるだけ学生に失敗させて、考えて話し合って答えを出させることで、学生の身になる主体的な学修を目指しています。

3 学校を病院に

新型コロナウイルスの影響を受け、学生を実習に行かせることができない状況の中で、色々な工夫をして実習に近い状態の再現を目指しました。まず、実習期間は授業中以外でも校舎全体が病院だという設定を作ることに。挨拶の仕方ひとつから病院での実習を想定して指導をしました。また、実習室に院内職員図を掲示。それぞれの先生に院長、看護部長、看護師などの役職をつけることで、教員と生徒として接することを意識的に無くし、病院の空気感を作ろうとされたそうです。他にも、実習室内にナースステーションを設置しました。ベッドサイドで形式的に教員に報告するのではなく、一旦ナースステーションに戻って指導看護師に報告。短期間の中で多くのことを発見し、学ぶことができる実習の代替をするのだから、実習の課程を省略しないことも大切だと考えています。



4 再現できないことは、写真でいい

代替実習を行うにあたって、中にはシミュレータではなかなか再現しづらい観察項目も。そんな問題を解決策として、アセスメントシートを作りました。八重には場合に応じて口の中に「乾いている」のシールやつま先に「つめたい」といったシールが貼られています。また、術後の設定のシミュレーションの時には、腹帯を開くと実際の術後の傷口を撮影した写真が見えるようになっています。例えば看護の思考過程のシミュレーションにおいて、本当に大切なのは八重の手が冷たいことではなく、学生がそれを発見できること。そして目指すのは、得られた情報をもとに学生が必要な処置やケアに結びつける臨床判断能力を身につけること。今回のシミュレーションにおいて何が大切なのか、修得すべきポイントを明確にし、代用できる項目はシールや写真で再現するのをもひとつの手だと考えています。

5 学内演習のメリットを活かす

本来の実習での学修内容を学内で完全に補填できることはないとのこと。しかし、学内実習には臨地実習にはないメリットもあったといいます。2週間の実習期間は学生全員が、受け持ち患者を想定して作成された統一のシナリオを経験したことで、実習中に学生間で出てしまう学習内容のムラがなくなりました。また実習現場に出向く教員がいなくなったため、シミュレーションに多くの人員を割くことができ、学生一人ひとりの習熟度を確認しながら指導にあたることができたそうです。今回 SCENARIO を使うことで、なかなか実習では経験できない症例も経験させることが可能になったそうです。取材中も SCENARIO で心不全に関するバイタルサインを複数提示し、学生に心音の聴き比べや心電図波形の見比べをされていました。



本記事作成にあたって、鳳凰高等学校様にはオンラインでのインタビューや掲載写真の撮影をしていただきました。先生方が役職や領域を超えてチームワークでご対応くださる姿が印象的でした。ご協力ありがとうございました！